

會 務 報 告

第 26 卷 第 5 號 昭和 15 年 5 月

役 員 會

第 2 回理事會 (昭. 15. 3. 18.)

出席者： 中村會長，谷口，吉田兩副會長，和田，稻葉(通)，廣瀬，稻葉(權)，富永各理事，中村書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

議 事

1. 文部省専門學務局科學課より寄贈方申入れの會誌其の他の刊行物は寄贈することとせり。
2. 駿河臺圖書館及滿洲國建築局より寄贈方申入れの會誌は實費配布とすることとせり。
3. 滿鐵奉天圖書館より寄贈方申入れの土木工學論文抄録は寄贈することとせり。
4. 大堰堤國際委員會日本國內委員會本會選出委員の選定は 3 月中に決定依頼することとせり。
5. コンクリート調査委員會委員に三島勇君，宮崎茂一君を追加依頼することとせり。
6. 第 4 回工學會大會追加豫算を工學會大會講演關係者に限る記念品贈呈を條件として別紙(省略)の通り承認することとせり。
7. 昭和 14 年旱害調査委員會委員長，副委員長，委員及幹事に次の諸君を依頼することとせり。

委員長 眞田秀吉君

副委員長 高橋嘉一郎君

幹 事 水谷 鏘君

委 員 ○富永正義君

○坂上丈三郎君

○水谷 鏘君

伊藤 信君

特別委員 三宅秀太君

西 義一君

鈴木健二君

田寺元次君

猿谷新太郎君

千葉 芳君

尾崎義一君

横井増治君

武居軍次郎君

○河口協介君

○内村三郎君

橋本規明君

山岡包郎君

岩崎雄治君

山口十一郎君

宮崎正夫君

高木秀雄君

山極二郎君

土肥憲二郎君

安藏善之輔君

川澤章明君

丸山悦三君

(○印は主査を示す)

8. 入退會の件別紙の通り承認せり。

第 3 回理事會 (昭. 15. 4. 8.)

出席者： 中村會長，谷口副會長，和田，稻葉(通)，富永各理事，中村書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

報 告

1. 第 4 回日本工學會大會終了に就き報告せり。

議 事

1. 大堰堤國際委員會日本國內委員會委員の選定は次回更に協議することとせり。
2. 日本工學會に本會より選出の評議員には經理部長を，理事候補者には總務部長を充つこととせり。而して評議員に稻葉通彦君，理事候補者に和田重辰君を選出することとせり。
3. 規則第 5 條に依り市村組市村兵次郎君を本會賛助員に推薦することとせり。
4. 鐵筋コンクリート示方書改訂の調査完了を見たを以てその關係委員の依頼を解くこととせり。
5. タイ國及セイロン國より來朝せる土木關係者に對し本會發行の土木工學論文抄録を寄贈することに関しては總務部長に一任することとせり。
6. 全國各地に支部の設置を見，尙滿洲及支那方面に支部の設置並に時勢の進展等に伴ひ定款及規則の改正を要すべき諸點を調査研究するため定款改正調査委員會を設置することとせり。

7. 支部長會議に於て協議せる各支部に調査委員會設置の件は定款改正の委員會を設立後同委員會に於て審議することとせり。

8. 土木材料節約に関する座談會の記録取纏めのため専任者 2 人を依頼することとし其の人は選は和田，稻葉兩理事に一任することとせり。

以上の外大陸調査關係に就て懇談したる結果 5 月上旬頃に於て大陸研究に関する座談會を開催することに申合せり。

第 2 回常議員會 (昭. 15. 3. 18.)

出席者： 中村會長，谷口，吉田兩副會長，和田，稻葉(通)，廣瀬，稻葉(權)，瀧尾，富永，大岡，岡田，金子，倉田，春藤各常議員，中村書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

報 告

1. 昭和 15 年度會誌編輯委員會委員長及委員を別紙(省略)の通り依頼せり。

2. 東北支部商議員及幹事を次の諸君増員せり。

商議員 上野節夫君, 勝目清二君, 高橋清藏君

幹 事 庄司陸太郎君

3. 中部支部第 2 回岐阜支部會座談會記事報告せり。

議 事

1. 昭和 14 年旱害調査委員會を設置することゝし要綱を次の如く決定せり。

旱害調査委員會要綱

1. 本委員會の名稱を昭和 14 年旱害調査委員會とす。

2. 本委員會の主旨は昭和 14 年近畿, 中國, 四國, 北九州, 朝鮮及關東州地方に起りたる旱害の調査報告を蒐集して災害の狀況, 原因, 對策等に就き正確なる記録を作成し將來の參考資料とするものとす。

3. 本委員會の事業は昭和 15 年 4 月に開始し昭和 15 年 12 月を以て終了するものとす。

4. 本委員會に委員長 1 名, 副委員長 1 名, 幹事 1 名, 委員若干名を置き地方に特別委員若干名を置く。

5. 調査部門を次の通りとし各部に主査を置く。

第 1 部 總論, 氣象, 河川

第 2 部 用排水路, 溜池

第 3 部 發電

第 4 部 上水道

第 5 部 産業其の他

但し朝鮮及關東州地方に於ける旱害調査は内地と事情を異にするを以て前記部門以外として朝鮮及關東州地方の特別委員に於て本調査部門及要項に準じたる調査報告書を作成するものとす。

2. 北海道支部昭和 15 年度收支豫算を別紙(省略)の通り承認することゝせり。

總 務 部 記 事土木學會文化映畫委員會 (昭. 15. 3. 12.)

出席者: 青木委員長, 片平, 下山, 廣田, 横田各委員
徳丸君, 小野寺庶務主任

協議事項

1. 4 月の映畫會は大陸映畫の夕とし此の會に相應はしい映畫を選定することにした。而して先以て次の 4 種を選び尙次回までに各委員に於て大陸關係の映畫を調査し題目を持寄ることにした。

白蘭の歌, 大黃河の鐵橋, 亞細亞の世紀, 北支戰線の後を尋ねて。

2. 次回委員會を 3 月 19 日(火曜日)開催することにした。

土木學會文化映畫委員會 (昭. 15. 3. 19.)

出席者: 青木委員長, 片平, 澤, 下山, 瀧尾, 廣田,
横田各委員, 徳丸君, 小野寺庶務主任

協議事項

1. 4 月開催の映畫會に就き協議を重ね次の如く決定し理事會に報告することにした。

講演と大陸映畫の夕

1. 講演: 文化映畫委員會の仕事

土木學會文化映畫委員會 委員長 青木楠男君

1. 映畫: (1) 建設列車 3 卷 (30 分)

(2) 秘境熱河 5 卷 (1 時間)

(3) 大地 14 卷 (1 時間 40 分)

2. 次回委員會を 3 月 26 日(火曜日)開催することにした。

土木學會文化映畫委員會 (昭. 15. 3. 26.)

出席者: 青木委員長, 金子, 下山, 瀧尾, 廣田, 横田
各委員, 徳丸君, 小野寺庶務主任

協議事項

1. 前回に於て決定せる映畫建設列車は廣田委員より滿鐵東京支社へ秘境熱河及大地は徳丸君より東和商事及メトロへ借入れを交渉し何れも承諾を得たる旨報告があつたが映寫時間の關係を考慮する爲め秘境熱河の試寫を東和商事に依頼することにした。

2. 内務省東京土木出張所に於て昭和 15 年度より三國峠國道工事に着手する筈なり依て此の工事を記録兼文化映畫として撮影せられむことを所長宛書面を以て希望することゝした。

編 輯 部 記 事第 4 回會誌編輯委員會 (昭. 15. 4. 17.)

出席者: 廣瀬委員長, 安藝, 黒澤, 松村, 友永, 吉田,
岡各委員, 坂本信雄(藤野委員代理), 左合,
志村編輯囑託

1. 第 26 卷第 4 號所載原稿謝禮を決定せり。

2. 第 26 卷第 6 號登載記事を次の如く決定せり。

論說報告: 低空流堰堤の流量係數(第 1 編)(會, 本間 仁), 複心曲線の安全視距に就て(准, 淺田喜久男)
彙 報: 隧道内の換氣に就いて(會, 西畑常), 線路作業員に對する知能並に特性検査報告(會, 石田武

雄), 韓國土木事業調査並に道路施行の思出(會, 片山貞松)

抄 録: 南 California に於ける災害復舊工事, Washington 州 Yakima 郡に於けるボックスガード橋, 一般土模範, 模型試験に依る流出係数の測定, クロソイド曲線による緩和曲線布設法, 流水中に於ける砂礫の運動の観測, ビット川橋梁の設計, 吸収性型枠, 堰堤のゴム製水止, E'be 河改良工事

3. 紙の入手困難なる折柄會誌頁数を約 100 頁とし, 其の内譯を次の如くすることとせり。

論説報告, 彙報……40~50 頁 抄録……30 頁
時報……集収に努めぬこと 内外文献……省略す
特許紹介, 圖書雑誌……從來通り

4. 工學會大會講演集豫約募集の件に關し之を理事會に諮ることとせり。

5. 紙の入手困難なるに就き, 總目錄發行に關しては, 自第 1 卷至第 25 卷の講演, 論説報告のみを収録する方針とし, 其の原稿を作製し, 次會にて再審議することに決定せり。

調査部記事

コンクリート調査委員会(第 12 回堰堤コンクリート調査小委員会)(昭. 15. 3. 19)

出席者: 吉田(徳), 内村, 伊藤, 一木, 水越, 新井, 近藤, 畠山, 吉田(赴), 山岡, 杉戸, 黒澤, 松岡, 福島, 宮崎

協議事項

1. 第 37 條, 第 38 條, 第 39 條, 第 40 條, 第 41 條, 第 42 條, 第 43 條を逐條審議せり。

2. 次回を 3 月 26 日(火)に決定せるも會場の都合により 3 月 28 日(木)と決定せり。

コンクリート調査委員会(第 13 回堰堤コンクリート小委員会)(昭. 15. 3. 28.)

出席者: 吉田(徳), 内村, 黒澤, 近藤, 佐藤, 畠山, 水越, 伊藤, 杉戸, 三島, 宮崎

協議事項

「第 7 章第 3 節コンクリートの輸送及打ち込み」中の起重機及バケットによる打ち込み, 縦樋卸し, 斜樋卸し, 其の他の場合に就き協議せり。

次回は 4 月 10 日(水)午後 5 時 30 分より續行とす。

コンクリート調査委員会(第 14 回堰堤コンクリ-

ト小委員会)(昭. 15. 4. 10.)

出席者: 吉田(徳), 内村, 大石, 伊藤, 一木, 黒澤, 高田, 畠山, 福島, 松岡, 水越, 宮川, 宮崎

協議事項

1. 第 42 條改正案に付き審議せり。

2. 粗石コンクリート及巨石コンクリートを條を更へて書き更めること。

3. 第 45 條畧中コンクリートの施工, 第 46 條畧中コンクリートの施工を審議せり。

4. 次回は昭. 15. 4. 18 (木)とし毎週大體木曜日に
行ふこととせり。

第 1 回昭和 14 年旱害調査委員会(昭. 15. 4. 15.)

出席者: 眞田委員長, 水谷幹事, 富永, 河口, 橋本, 伊藤各委員, 中村書記長, 小野寺庶務主任
眞田委員長より挨拶あり議事に移る。

議事

1. 委員会要綱に就て協議し第 1 部に湖沼を追加することとし主査及各部委員を次の如く決定せり。

第 1 部 總論, 氣象, 河川, 湖沼 主査 富永正義君
委員 橋本規明君

第 2 部 用排水路, 溜池 主査 坂上丈三郎君
委員 須藤 廉君(交渉中)
柴戸良五郎君()

第 3 部 發 電 主査 内村三郎君
委員 山岡包郎君

第 4 部 上 水 道 主査 河口協介君
委員 杉戸 清君

第 5 部 産業共他 主査 水谷 鏘君
委員 伊藤 信君
淺井政治君

2. 特別委員に次の諸君を追加することに申合せり。

古賀久六君(佐賀縣)緒方虎之助君(大分縣)河合清君(熊本縣)

3. 朝鮮地方の特別委員配置に關しては横井委員に考慮を依頼することとせり。

4. 調査表様式及記載事項に就ては水谷幹事に於て次回までに原案作成の上更に協議することとせり。而して調査報告用紙は見本刷を作成し特別委員に依頼状と共に廻付すること。

5. 調査依頼状は別紙(省略)の通り決定せり。

6. 次回委員会を 4 月 23 日(火曜日)開備することとせり。

7. 委員に次の諸君を追加することに申合せり。
 杉戸 清君、須藤 廉君(交渉中)
 、柴戸良五郎君(交渉中)

北海道支部記事

第 10 回役員會 (昭. 15. 3. 22)

出席者: 神保支部長, 小野, 河西, 齊藤, 杉森, 千秋,
 惣部屋, 平尾, 山岡各商議員, 大坪幹事長,
 安藝, 板倉, 瀬田各幹事, 岡本主事

報 告

1. 昭和 14 年度決算報告
2. 昭和 15 年度豫算變更
3. 25 周年記念廣告募集交附金の件
4. 昭和 15 年度交附金の件

議 事

1. 昭和 15 年度支部事業の件
2. 第 3 回支部長會議々案の件

日本工學會記事

昭和 15 年 3 月 26 日, 日本工學會評議員會を開催し一般事務の報告あり次で下記事項を決議せり。

1. 日本工學會經常部剩餘金の一部を特別準備金に繰入れの件
2. 4 月開催の社員總會に提出叢案の件

第 4 回工學會大會記事

第 4 回日本工學會大會は日本工學會により 4 月 2 日より 5 日間に互り東京帝國大學構内及東京附近各地に於て盛大に開催された。本年は時恰も皇紀 2600 年に當り, 支那事變も第 4 年に入り, 新支那中央政權は樹立し, 新東亞は建設の段階に入った。今や日本技術の使命は日一日と其の重大性を増しつつある。この時に當り, 日本技術の精華を動員し得たことは非常に有意義であつた。

日本鑛業會, 建築學會, 電氣學會, 造船協會, 日本機械學會, 工業化學會, 火兵學會, 土木學會, 日本鐵鋼協會, 照明學會, 電氣通信學會, 衛生工業協會, 日本鑄物協會, 日本冷凍協會, 熔接協會, 日本金屬學會の 16 學協會々員より成る工學會々員参加者は約 8300 名に達した。第 1 日は東京帝國大學講堂に於て午前 9 時より總會を開き, 15 學協會の代表講演が行はれ

た。本學會よりは中村會長が“本邦土木事業の現況”と題して講演された。午後 6 時 30 分より上野精養軒に於て晚餐會が開催され頗る盛會であつた。第 2 日より第 3 日正午迄講演部會が催され, 土木學會にては第 4 部會の土木工學を擔當し, 第 2 部會の應用力學にも論文發表を行つた。土木學會々員の提出論文數 121 に上り, 會場は満員の盛況で, 全出席者に講演前刷を配布の豫定であつたが, 紙統制の折柄其の部數に不足を來たし, お氣毒な方もあつた。講演時間は僅か 15 分と制限されたにも拘らず, 各講演者は要旨を簡明に説述され, 聴講者をして満足せしむるに充分であつた。

尙第 4 部會(土木工學關係)に於ける講演題目と講演者は次の如くである。

(道 路)

砂利道を利用する鋪裝工法に關する研究

工學士 谷藤 正三
 親不知國道改築工事に就て 工學士 早田 英夫
 我國に於ける今後の道路に就て

工學士 菊池 明
 變形多き輪帶の回轉抵抗 工學士 山田 元
 飛行場の計畫に就て 工學士 末森 猛雄
 新京濱國道工事 工學士 岩澤 忠泰
 最近に於ける道路鋪裝の新傾向

理學士 渡邊 米一
 鐵道と道路との交叉の處理に就て

工學士 和田 重辰
 路線設定の理論と道路系統に關する研究

工學博士 藤井 眞透

(都 市 計 畫)

防空都市計畫 工學士 奥田 教朝
 北九州工業の集積とその立地的檢討

工學士 赤岩 勝美
 新宿驛廣場建設事業に就て 工學士 小田川 利喜
 大連灣沿岸工業地造成計畫に就て

工學士 兒玉 實
 積雪地方に於ける都市計畫上の問題

工學士 佐田 昌夫
 相模原都市建設區劃整理事業概要

工學士 野坂 相如
 北支の都市計畫に就て 工學士 山崎 桂一

四日市臨海都市建設事業に就て
 工學士 兼岩 傳一

(材 料)

- 土の突固めに關する質験的研究
工學士 星 塾 和
- 北滿に於ける河川水上軌道載荷試驗に就て
工學士 田 邊 利 男
- 國產電極棒による熔着鋼の強度に就いて
工學士 青 木 楠 男
- クボタイト試驗成績
工學士 西 川 榮 三
- (橋 梁 及 構 造 物)
- 自旋式吊橋の二次應力
工學士 平 井 敦
- 松花江橋梁に於ける應力試驗に就て
工學士 山 内 寛 一
- 床桁の變形に依るポロートラスの二次應力に就て
工學士 樋 浦 大 三
- 鉸桁鐵道橋の鋼重量に就て
大 津 寛
- 抗壓柱に於ける綫片及綴銀の配置に就て
工學士 安 宅 勝
- 鋼道路橋設計並に製作示方書案に就て
工學士 鈴 木 清 一
- 熔接鐵道橋の安全率に就て
工學博士 田 中 豊
- 鋼構橋の耐爆構造に就て
工學士 高 橋 逸 夫
- 耐彈橋梁に就て
工學博士 三 瀬 幸 三 郎
- フイーレンデイール・トラス橋と機械的作表法
工學博士 鷲 部 屋 福 平
- 石造橋設計に就て
工學士 成 瀬 勝 武
- 鐵筋コンクリート床版の
破壊試験に就て
{ 工學士 齋 藤 義 治
工學士 一 木 保 夫
- 鋼製拱架の使用による鐵筋コンクリート
拱橋の架設
工學士 小 田 仁
- 鐵筋コンクリート下路拱橋に於ける
横荷重應力に就て
工學士 水 野 高 明
- 鐵筋コンクリート拱橋に就て
工學博士 小 川 敬 次 郎
- 支壓應力に對する配筋に就て
工學士 内 山 實
- 鐵筋コンクリートゲルバー式ラーメン桁橋に就て
工學士 水 山 嘉 徳
- 量水標に現はれた隅田川驛の沈降
(昭和 14 年までの観測)
坂元左馬太
- セメント注入に依る橋脚根固工事に就て
工學士 倉 山 俊 一
- 自新線信濃川橋梁井筒工事に就て
工學士 淺 原 重 壽
- 砂ジャッキに依る橋桁の低下作業に就て
浦 上 悦 治
- 紀勢西線の風水害と橋梁の被害に就て
工學士 石 川 九 五

- 傳法尼崎線新淀川橋梁に就て
工學士 伊 木 茂
四ツ木橋下部工事並に上部構造の設計に就て
工學士 南 保 賀
- 奥多摩橋に就て
工學士 綾 龜 一
- 大師橋架設工事に就て
工學士 大 林 勇 治
- 新淀川橋梁に就て
工學士 堀 威 夫
- 川口線第一只見川拱構の設計
金澤義之介
- 兩國錦糸町間高架橋工事
澁 谷 順 作
- 南谷線小鴨川橋梁上路鉸桁手延式架設
工學士 齋 藤 卯 之 吉
- 新橋驛附近地下鐵工事に就て
小 河 太 郎
- 瀬戸橋梁の設計並に施工に就て
工學士 櫻 井 亨

(鐵 道)

- 乗降場の所要幅員
工學士 笠 谷 孝
- 電車庫に就て
工學士 佐 藤 輝 雄
- 滿洲に於ける操車場に就て
工學士 功 力 和 夫
- 貨車操車場の配線に就て
工學士 立 花 次 郎
- 東京-下關間新幹線規格に就て
工學士 大 石 重 成
- 踏切開閉に依り道路交通量の被る影響に就て
工學士 川 口 裕 康
- ロシア文獻より見たる酷寒地鐵道建設上の
特異現象
工學士 原 田 干 三
- 自神隧道直轄工事に就て
工學士 森 田 紀 元
- 敦賀線深坂隧道に就て
工學士 高 原 芳 夫
- 道床バラスト締固めに就て
安 倉 安 範
- 分岐器不密着の原因と探究に就て
小 谷 一 男
- 新築堤に列車を運轉せる質績に就て
加 藤 正 人
- 軌間整正作業研究の經過に就て
工學士 谷 川 會 治
- 流雪溝の研究
乾 市 太 郎
- 類雪止階段工及枕木工に就て
石 田 信 義
- 極寒地に於ける線路の保修に就て
工學士 十 倉 清 五 郎
- 赤穂線直轄工事に就て
工學士 中 路 誠 三
- 線路道床敷込みの質績に就て
武 藤 貞 一
- 鹿瀬一津川間地入り箇所に於ける
線路保守に就て
荒 木 義 弘
- ロックナットワッシャの效果に就て
近 藤 正 明
- 軌條に生ずる垂直振動加速度の測定に就て
工學士 今 井 四 郎
- 軌條の撓みに就て
工學士 板 橋 三 郎
- 經濟的軌條重量の研究
工學士 岡 部 二 郎

道床のタイタムパー捣に就て 深谷 義雄
 (測 量)
 エラスチカ型の曲線の屈曲 工 學 士 江 藤 禮
 三角網の新調整計算法に就て 工 學 士 板 倉 忠 三
 我國に於ける寫眞測量 理 學 士 武 田 通 治
 鐵道航空寫眞測量に就て 工 學 士 渡 邊 寛 治
 滿洲の鐵道建設に於ける航空寫眞測量に就て
 工 學 士 河 野 要

(發 電 水 力)
 有峰堰堤に就て 工 學 士 伊 藤 令 二
 日本に於ける最大使用水量の發電計畫 幡 鎌 俊 次
 田澤湖利用發電計畫に就て 工 學 士 渡 邊 義 道
 日本に於ける最大發電所 古 川 運 造
 鐵道省信濃川發電所に就て 工 學 士 阿 部 謙 夫
 基礎にケイソンを使用せる堰堤工事
 工 學 士 増 谷 悠
 發電水力に於ける捲立隧道の
 コンクリート厚に就て 工 學 士 谷 本 勉 之 助
 黒部川第三號發電水路工事に於ける高熱
 隧道工事の施工に就て 工 學 士 松 谷 正
 臺灣に於ける發電水力に就て 齋 藤 貫 一

(河 川)
 洪水流に就て 工 學 士 伊 藤 剛
 河床洗掘に對する橋脚配置の影響に就て
 工 學 士 石 原 藤 次 郎
 流砂河川の水利 工 學 士 淺 野 好
 可動河床模型實驗に就て 工 學 士 安 藝 皎 一
 工 學 士 横 田 周 平
 工 學 士 佐 藤 清 一
 北支の水利 工 學 士 本 莊 秀 一
 柳河治水工事に就て 農 學 士 五 十 嵐 眞 作
 南滿運河計畫に就て 工 學 士 米 田 正 文
 氷雪と河川工事 工 學 士 三 島 卯 四 郎
 急流河川に就て 工 學 士 蒼 尾 登 龍
 木曾川に於ける流量調節に就て
 工 學 士 三 池 鎮 浪
 天龍川上流改良工事の效果に就て 楠 仙 之 助

(上 下 水 道)
 河川淨化に就て 工 學 士 杉 戸 清
 下水處理副産物の利用に就て 中 條 都 一 郎
 下水處理の一新方法に就て 工 學 士 鈴 木 義 一
 水中接觸法による下水の淨化實驗に就て 安 部 源 三 郎
 配水に關する二、三の問題 工 學 士 岩 崎 登 吉
 酷寒地に於ける水道施設の特性に就て
 工 學 士 有 賀 茂

神戸市上水道の災害に就て 工 學 士 村 山 喜 一 郎
 (材 料)
 高強度コンクリートの製作に就いて
 工 學 博 士 吉 田 徳 次 郎
 寒中コンクリートの施工報告 高 橋 憲 治
 有害水に依る各種セメントの耐鹹性に關する試験
 工 學 士 福 島 彌 六
 コンクリートの透氣性に關する試験 池 田 克 己
 (港 灣)

大連港に於ける二、三の問題 工 學 士 鶴 岡 鶴 吉
 深海よりのケーソン引き揚げ 工 學 士 天 埜 良 吉
 宇部港の浚渫工事 工 學 士 橋 川 保
 時局下に於ける岸壁及物揚場護岸構造
 工 學 士 江 崎 善 愛
 中支港灣に就て 工 學 士 池 田 徳 治
 地震時擁壁に作用する土壓に關する研究
 工 學 士 松 尾 春 雄
 仁川港に於ける港灣工事の二、三の問題
 工 學 士 福 井 瀧

工業展覽會は2日より3日間東大大講堂、學生第二食堂及附近屋外に於て開催され、國産を主とせる優秀なる機械器具材料類其他研究資料等多數出品せられ、斯界に裨益する所大なるものがあつた。

土木學會懇親晚餐會記事

4月4日の講演終了の後上野精養軒に於て土木學會懇親晚餐會が開催せられた。内地の各地方は勿論遠く大陸方面よりも多數の出席者あり其の數161名の多きに上り頗る盛大に取り行はれ、會食後中村會長より大要次の如き挨拶があつた。

茲に第4回工學大會を終了するに當り、會員各位の御努力に對し衷心より謝意を表する次第である。又今回の講演會に際しては會員多數の研究を發表せられ、工學會よりも本會に對し深甚の謝意を表せられた事を御傳へする。次回は恒例により4年後の昭和19年であるが、其の年は偶々本會創立31年に當る譯であつて、過ぐる4年間の土木界に於ける各方面の研究を實に於ても遙に凌駕するものである事を望んで止まない次第である。

“顧るに今日東亞の狀勢は隣邦支那に於ける新中央政府の樹立を見、善隣友好、彼我提携の實を擧ぐるに至りたると共に、内には益々國防の充實を計るの要を示しつつある。之れが爲めには國民生活の安定を期すると共に生産力の擴充を計り、國家の總力を擧げて邁

進するの覺悟を要する、茲に於て我々技術人は愈々技術報國の念を固めなければならぬ事を痛感する。

云ふまでもなく土木技術は以上の諸國策の根幹をなす所のものであつて、本學會は之れが使命達成のために勇猛邁進、奉公の實を擧ぐらるるため尙一層の協力を望む次第である。”

會長の挨拶に次いで偶々來朝中にして本晩餐會に招待せるセイロン國遞信省工務局土木技師長マバデバ氏は、“本夕この宴席に御招待を受けた事を衷心より感謝すると共に、日本に於ける土木工學界の諸權威と晩餐を共に出來た事に對し喜びを禁じ得ないものである。私は日本の土木學會が斯くも多數の會員を擁し斯界のため日夜研鑽せられつゝある現状に對して羨望に絶えない次第である。

私共の國は小さく、土木技術者の數も少い。首府はコロomboであるが全國民の數が600萬人に過ぎぬ事からでも御察し願へる事と思ふ。國土は一般的に云つて灌溉を必要とする廣大なる地域が大部分を占め、降雨の状態は良好でない。季節風其の他の影響によつて降雨を見る事もあるが之は僅かに限られた2地方に過ぎない。普通乾燥期間3ヶ月位は珍らしくない。従つて今後は灌溉用水の實施に俟つべきものが極めて多い譯である。又今後の開發に俟つべき資源も豊富である。

私は今日迄日本の各方面の偉大な土木の業績を視察して來たが、何卒これらの優れたる技術を以つて私の國を指導して戴く事を祈つて止まない。”

と述べ、次いで會長の指名に依りテーブル・スピーチが行はれた。先づ九大教授三瀬幸三郎氏立ちて九州に於て近く是非共年次學術講演會を開催せられる様、尙土木學會は目下各地方に支部を有し益々盛大になりつゝある際東京支部の成立せられんことを希望して着席し、次いで南滿洲工業專門學校教授原田千三氏も大陸滿洲に支部の設立せられんこと並に土木學會内に露西亞に對する研究會の設けられんことを説き、富山縣電氣局技術顧問石井願一郎氏は吉川英治作「宮本武藏」の一節を引用して我々日本人の土木工事に對する考へ方を面白く談話せられ、最後に京都市土木局長牧野雅樂之丞氏は我々日本人の獨創力に富めることを述べ益々世界的に日本の土木技術の發展せられんことを述べてテーブルスピーチを終つた。午後8時半近く會長の挨拶あり至極盛大裡に會を閉じた。

見學會記事

5日、6日の兩日に互つて新宿御苑、東京帝國大學

航空研究所、内務省土木試驗所本所、帝國議事堂（貴族院）、浦賀船渠株式會社浦賀工場、等36の多きに及ぶ見學箇所の見學を行ふこととした。この内土木學會は内務省土木試驗所本所並同赤羽分所の見學を擔當することとなつた。

内務省土木試驗所本所：本試驗所の見學時刻は5日午前9時より午前11時迄であつて、參集者64名（申込人員165名の39%）は受付にて「土木試驗所概要」の配付を受け見學者控室に於て同所々長工學博士藤井眞透氏の挨拶があつた。それより全員を3班に分ち夫々所員の案内のもとに各室擔當者の説明を受けつゝ逐次所内の見學を遂げた。

本所は大正11年9月30日官制の制定を見、而して翌12年11月事業を開始せるものにして、其の後漸時其の内容を充實したるものであり、現在同本所には次の試験科がある。

道路試験科、構造物試験科、コンクリート試験科、地質試験科、化學試験科及機械試験科等であり目下時局柄代用セメント、木橋の強度増進に關する試験等を特に興味深く見學を行つた。

内務省土木試験所赤羽分所：同所の見學は6日午前9時より11時の間に於て行はれ參集者13名は各擔任技術者の懇切なる説明を受けつゝ廣大なる所内をくまなく見學を行つた。同所は本郷區駒込の土木試験所の分所として大正15年設立を見たもので河川試験科、港灣試験科、基礎試験科及道路試験科の一部である。

就中河川、港灣に關する大規模な模型實驗は同所の誇るものであるが正に瞠目に價するものであつた。

最後に駒込、赤羽兩試験所の見學に際して盡力下された同所各位に對して深謝する所である。

その他記事

昭和15年4月1日土木學會誌第26卷第4號を發行成規の手續を了し、全會員に配布せり。

第3回支部長會議

會場：東京會館

出席者：中村會長、谷口、吉田兩副會長、和田、稻葉（通）、廣瀬、稻葉（櫻）、瀧尾、富永各理事、金森（東北）、田淵（中野）、平野（關西）、各支部長、大坪（北海道）、内田（東北）、比企

野(中部)各幹事長, 堀(關西), 大野(西部) 兩幹事, 中川, 神館(關西)囑託, 中村書記長, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任, 糸川編輯主任

昭和 15 年 4 月 3 日午後 6 時 30 分谷口副會長の挨拶により開會し下記の事項を議題として協議せり。

(本部提出議案)

1. 支部に於ける地方委員名稱に関する件
2. 支部事業資金募集に関する件
3. 特別員及會員増加勧誘に関する件
4. 各支部管内に於ける會誌廣告募集の件
5. 第 3 回年次學術講演會開に関する件

(北海道支部提出議案)

1. 本部に於て各支部に對し文化映畫配給斡旋に関する件
2. 中等程度の土木技術者速成養成機關擴充建議の件
3. 資材の不足に對處する各種工法の研究に関する件

(東北支部提出議案)

1. 地方事情に即應する問題に關し設置する調査委員會は之を當該地方支部内に設置するの件

議 事

本部議案第 1. 從來全國に涉り本部より依屬せる地方委員は將來は支部地方委員とすることに申合せ差當り支部管内の現地方委員に對する依頼事項は各支部を経ることとせり。

本部議案第 2. 支部に於ける事業の資金募集は 1 萬圓程度とし之が收支豫算及決算に就ては會長の承認を

受くることとせり。

本部議案第 3. 各支部に於て特別員及會員の増加を圖ることに申合せたり。

本部議案第 4. 各支部に於て土木學會誌に廣告の掲載方を極力勧誘することを申合せたり、而して廣告掲載に對する手数料は廣告料金の 2 割を支部に交附することとせり。

本部議案第 5. 第 3 回年次學術講演會は明年西部支部管内に於て開催することとし、第 4 回は東北支部管内にて開催することに申合せたり。

北海道支部議案第 1. 各支部に對し本部に於て文化映畫の配給斡旋を爲すことに就ては差當り映畫の選定及貸與先通知位に止め將來は支部希望に副ふ様考慮することとせり。

北海道支部議案第 2. 中等程度の土木技術者速成養成機關擴充建議に就ては理事會に於て協議することとせり。

北海道支部議案第 3. 資材の不足に對處する各種工法の研究に關しては本部に於て昨年 5 月開催せる土木材料節約に關する座談會に於て検討したる記録を調整して參考とすることとせり。

(東北支部提出議案)

東北支部議案第 1. 地方事情に即應する問題に關し設置する調査委員會を當該地方支部内に設置するのは理事會に於て協議することとせり。

以上の議事を終了、晚餐を共にしたる後ち中村會長より會長就任の挨拶あり午後 9 時 30 分散會せり。

入 會 及 轉 格 會 員

特 別 員 (入 會)

磐城炭礦株式會社礦業所 菅原萬治郎君 3 級

會 員 (入 會)

奥田 秀次君 日本ニツケル時報局	中村 俊雄君 日本發達電會社	松村 丈夫君 東鐵工務部改良課
柿 菊市君 徳島縣籍土木課	福光 昂君 朝鮮總督府内務局土木課	林 樹枝君 滿洲國交通部都邑計畫司水道科
田中 八郎君 東京市土木局治水工事課	中島 強君 "	

准 員 (入 會)

相原 龜君 滿洲國交通部都邑計畫司水道科	秋岡八十吉君 株式會社竹中工務店	井上 信一君 株式會社松村組
青木 武造君 名鐵沼津保線區	荒木 良三君 三木合資會社	伊 藤 弘君 株式會社岡組
青木 道雄君 内務省名古屋土木出張所	新井 恒二君 内務省名古屋土木出張所	伊 藤 義男君 東京府土木部道路課
赤野 豐君 株式會社大林組	井上健五郎君 黃海道籍土木課	五十嵐 靜君 内務省名古屋土木出張所

生田 秀君 大阪市港灣部技術課
 石井 萬吉君 土木建築請負三ツ木組
 稻垣 稻作君 朝鮮總督府內務局土木課
 大川原一男君 "
 大熊 幸作君 忠清北道治水事務所
 大田 和一君 朝鮮總督府內務局土木課
 大野 一郎君 天津鐵路局工務處
 大森 健一君 朝鮮總督府內務局土木課
 岡 一衛君 "
 岡田 四朗君 朝鮮總督府內務局土木課
 岡田 政夫君 "
 岡野 勝次君 東京市土木局治水工事課
 沖田 止信君 黃海道海州土木管區
 荻原 忠雄君 遼東殖産會社
 加藤 松男君 日本鑛金團會社
 梶 正巳君 朝鮮總督府內務局土木課
 金子 明君 三菱鑛業會社
 金子 敏君 內務省名古屋土木出張所
 金谷 治一君 朝鮮總督府內務局土木課
 上保 顯六君 三木合資會社
 龜澤 久信君 東北振興電力會社
 川尻 秀夫君 東京府第一道路出張所
 木村 良一君 鐵道省大阪工事々務所
 北野 正一君 朝鮮總督府內務局土木課
 金 龍 建君 滿洲交通郡黑河土木工程處
 久保田正秋君 昭和製鋼所

久米 一雄君 慶尚南道鹽土木課
 小 島 浩君 忠清南道鹽土木課
 小山 正男君 "
 佐伯 俊一君 朝鮮總督府內務局土木課
 佐藤 吉造君 內務省名古屋土木出張所
 佐野 聞男君 神奈川縣鹽土木部
 最勝寺 保君 朝鮮總督府內務局土木課
 阪井 稔君 昭和製鋼所
 阪根 實君 滿洲交通郡都邑計畫司水道科
 清水外次郎君 內務省名古屋土木出張所
 島田 泰一君 東京市水道局擴張課
 陶山 義生君 內務省名古屋土木出張所
 田中 香苗君 朝鮮總督府內務局土木課
 太原 靜夫君 "
 大郷 雅夫君 神奈川縣鹽土木部
 高瀬 利次君 滿洲交通郡黑河土木工程處
 高橋 喜代高君 朝鮮總督府內務局土木課
 高橋 忠男君 內務省名古屋土木出張所
 瀧瀬 正治君 東京市水道局擴張課
 土谷 鐵朗君 內務省名古屋土木出張所
 出ツ所幸佐治君 慶尚南道鹽土木課
 德能 明君 臺灣電力會社
 歲弘 英雄君 朝鮮總督府內務局土木課
 内藤 文造君 "
 中根 治君 忠清北道鹽土木課
 永井 文行君 神奈川縣鹽土木部

長田 收作君 黃海道海州土木管區
 西 章君 日本大學土木教員
 橋本 徳治君 滿洲交通郡都邑計畫司水道科
 早川小右衛門君 內務省名古屋土木出張所
 原田 長植君 忠清北道鹽土木課
 樋口 勝巳君 東京市土木局治水工事課
 平島 松雄君 東京市水道局業務課
 福山 重太郎君 滿鐵々道總局建設局計畫課
 船岡 熊義君 朝鮮鐵道局
 古市 正運君 都市計畫香川地方委員會
 母良田 順治君 朝鮮總督府內務局土木課
 星野 彰君 東京府第二河川出張所
 星野 博君 "
 朴 吉 洙君 朝鮮鐵道局釜山改良事務所
 正木 嘉明君 神奈川縣鹽土木部
 松田 國男君 朝鮮總督府內務局土木課
 水谷 嘉一郎君 "
 宮崎 殿君 "
 山内 郡時君 "
 山下 明隆君 "
 山本 鎮人君 內務省下關土木出張所
 吉家 薫君 黃海道鹽土木課
 吉原 正一君 朝鮮總督府內務局土木課
 林 優 詒君 "
 和田 保一君 "
 渡部 喜一君 東京振興電力會社

學 生 員 (入 會)

伊丹 康夫君 東京帝大
 上田 卓郎君 立命館日滿高工
 小田 明君 "
 大倉 信一郎君 仙臺高工
 大波 儀四郎君 早稻田高工
 加藤 博君 立命館日滿高工
 精谷 誠一君 "
 姜 鐘 熙君 "
 金 羽 植君 "
 郡 司 三 郎君 仙臺高工
 佐々木 茂章君 立命館日滿高工

雜賀 正弘君 興亞工學院
 坂本 制司君 立命館日滿高工
 鮫 島 宗之君 東京帝大
 園 部 正男君 仙臺高工
 田 中 實君 "
 多田 克明君 山梨高工
 高島 義忠君 日大專門部
 高橋 薫君 山梨高工
 武田 守一君 仙臺高工
 谷村 一夫君 立命館日滿高工
 塚 西 幹雄君 "

坪田 正志君 仙臺高工
 土井 忠七君 立命館日滿高工
 中尾 規夫君 "
 中川 平太郎君 "
 中谷 義一君 "
 中坪 一夫君 山梨高工
 藤岡 伉君 立命館日滿高工
 牧野 眞也君 "
 横山 尙雄君 "

會 員 (轉 格)

赤 司 彦一君 朝鮮鐵道局京城建設事務所

丹 羽 一 雄君 株式會社西松組

藤野 義男君 內務省土木局第一技術課

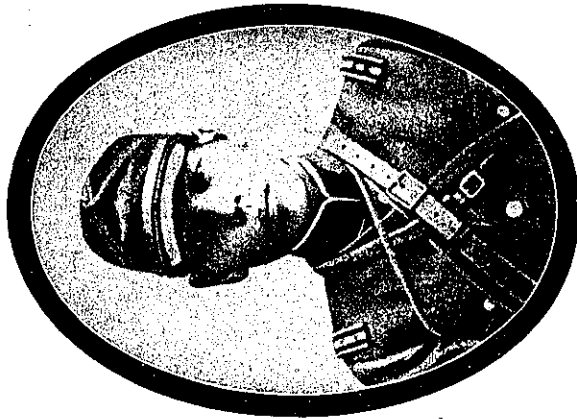
土 木 學 會 々 員 數

會 員	准 員	學 生 員	特 別 員	贊 助 員	合 計
3 368	4 502	1 497	92	27	9 486

會員 菅原恒隨君，永田兵三郎君，兒玉淳一君，久布白兼治君，中井龜太郎君の訃報に接す，本會は恭しく哀悼の意を表す。

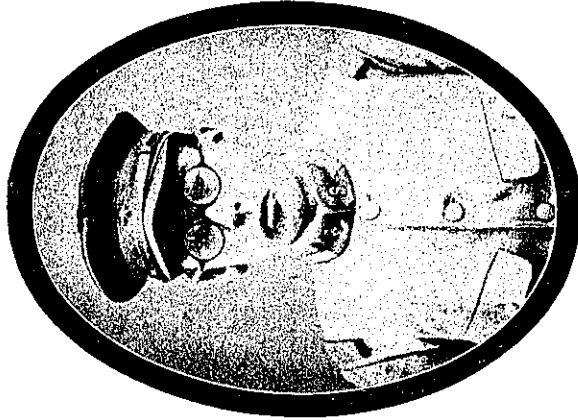
准員 大野照光君，古川弘道君，川淵續君の訃報に接す，本會は恭しく哀悼の意を表す。

名譽の今次事變戰死會員(其の1)



故 渡邊有友君

大正 2 年 2 月 27 日生
 福岡縣京都郡諫山村
 昭和 8 年 3 月 熊本高等工業學校
 土木工學科卒業
 門司鐵道局工務部改良課
 昭和 13 年 10 月 21 日 南支黃原嶺北方
 2 料の地點に於て戰死



故 豐福長介君

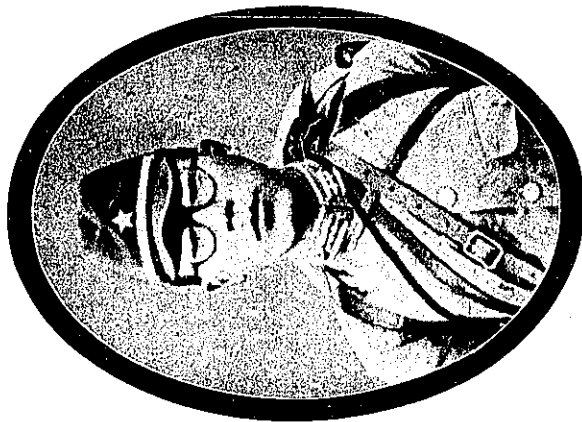
大正 7 年 3 月 9 日生
 名古屋市長區東大曾根町
 昭和 11 年 4 月 名古屋高等工業學校
 夜間部土木工學科入學(在學中)
 昭和 14 年 7 月 24 日 河南省確山縣に
 於て戰死



故 龜山敏郎君

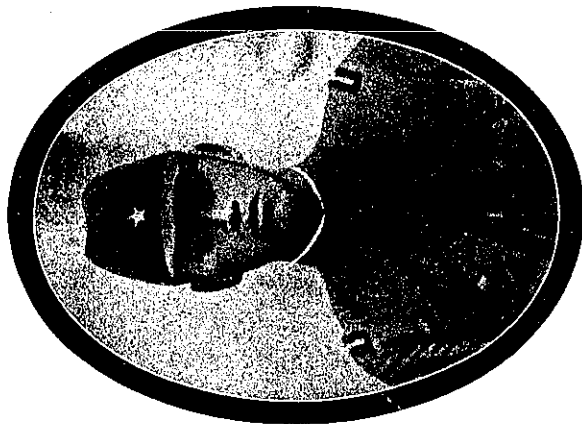
大正 3 年 10 月 29 日生
 福岡縣志太郡豐田村
 昭和 9 年 4 月 東京帝國大學工學部
 土木工學科卒業
 鐵道技手 神戸保線區助役
 昭和 14 年 8 月 29 日 ハルハル河岬に於
 て戰死

名譽の今次事變戰死會員(其の2)



故 杉本 芳一 君

大正 2 年 10 月 12 日生
 鹿兒島縣薩摩郡高城村
 昭和 10 年 3 月 熊本高等工業學校
 土木工學科卒業
 東京電燈株式會社技手
 昭和 15 年 1 月 22 日 中支隨縣高城附
 近韓子山に於て戰死



故 高野 源治 君

大正 6 年 3 月 31 日生
 愛知縣碧野郡刈谷町
 昭和 12 年 3 月 名古屋高等工業學校
 土木工學科卒業
 鐵道省建設局信濃川電氣事務所企畫課
 昭和 15 年 4 月 16 日 山西省運城東方
 約 20 料張店鎮附近に於て戰死